

. The Antitrust Front

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">経済学者</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">対立点</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">弁護士</div>
<p>トラストによって達成された市場支配は独占に等しく、それ故に法律違反だった トラストが優れた効率性によってではなく、競争を破壊するように設計された略奪的な戦術によって圧倒的な市場支配を達成した。</p> <p>地理的価格差別；トラストはシガレットにおける初期の独占から得た莫大な利益を、価格競争を補助するために用いた。</p>	<p>タバコトラスト</p>	<p>タバコトラストの起源は、独占に基づくものではない。単に適者生存のための戦いを反映していた。これらのトラストの真の機能は、効率性を増して、弱い企業を取り除くことだった。</p> <p>ジョン・D・ロックフェラー；巨大企業の成長は、競争的市場においてもっとも適した生産者が勝利したこと以外の何者でもない。</p>
<p>トラスト解体の措置は、「1社のかわりに4社の独占体」となる寡占をつくりだした。解体命令から4分の3世紀がたったが、4大シガレット企業は合計で、アメリカのシガレット売上の98%をなお支配している。</p>	<p>寡占/4大シガレット企業のシェア</p>	<p>合計の市場シェアは長年にわたり相対的に安定していたかもしれないが、個々の企業のシェアは激しく変動してきた。産業におけるリーダーシップは常に変動にさらされている。</p>
<p>価格競争</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">暗黙の共謀</div> <p>シガレット産業は、古典的で、緊密な寡占であり、新規参入者の挑戦からがっちりと隔離されている。意識的な並行的行動、プライス・リーダーシップ、プライス・フォロースhipは日常的なことで、価格競争はごくごくまれにしかない。寡占企業間で明白な協定がないとしても、彼らはカルテルのように行動する。これがトラスト解体以来のタバコ産業におけるいつもの手口であり、生き方。</p> <p>共謀が暗黙のものであろうと明示的なものであろうと結果は同じ。超過利潤をもたらす非競争的価格である。</p> <p>真に競争的な市場においては、企業は確実に「わが道を行く」だろう。</p>	<p>シガレット価格</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">寡占的合理性</div> <p>寡占的な状況においては、価格引き上げを検討している企業は、ライバルのそれぞれがこの引き上げに追随することからくる共通の利益について理解していることを知っている。直接のコミュニケーションがなくとも、単に市場における互いの行動を観察し、集团的利益に合致した行動をとるという単純な戦略によって、ライバル企業同士が競争的水準を超える価格に到達し、またこれを維持する。</p> <p>それぞれの企業は、相互依存とは、協調的行動が合理的であり、「わが道を行く」ことは自殺行為であることを意味するとわかっている。</p>
<p>後発者の新規参入を防止するために、また寡占のゲームに加わることを拒否するライバル企業に懲罰を与える略奪的戦術に訴え</p>	<p>略奪的行為</p>	<p>これは古き良きスタイルの競争。経済学者だって、私たちの自由企業システムでは、企業に非合理的で自殺に等しい行動を期</p>

<p>続けている。 例； 10 セントブランドに対して主要企業がとった行動。</p> <p>略奪というのは、競争の核心そのものを破壊するような競争行為のこと。</p>		<p>待できないことには同意しなければならないだろう。</p>
<p>裁判所は、空想的な経済理論家によって構築された、抽象的で難解な理論モデルを採用したので、略奪的行為の理論を採用しなかった。裁判所は「ジェネリック」シガレットに不利な判決を下したが、それでも常識に属することは認めた。</p>	<p>1980年代後半のジェネリック・シガレットメーカーへの略奪的攻撃に対する最高裁の判決</p>	<p>最高裁は略奪的行為の理論を採用しなかった。</p>
<p>非価格競争</p>		
<p>広告</p>		
<p>途方もない広告支出は、巨大な参入障壁を築いているという説明もある。もしこのコストがなかったら、多くの新規企業がこの産業に参入し、現在の寡占企業による支配を掘り崩していただろう。</p>	<p>巨額の広告コスト</p>	<p>タバコ産業は、国内でもっとも大規模な広告主としてランク付けされている。明らかに、シガレット企業は競争相手から市場シェアを奪うためのドッグ・ファイトを行っている。</p>
<p>競争的広告として始まったものが、結局共謀と協調的行動に帰結した。</p> <p>1953年の「カートンによるガン」という論文；「いきすぎれば、タバコは命を縮める」1952年の『ブリティッシュ・メディカル・ジャーナル』誌に掲載された論文；多量の喫煙とこの病気との間に強い相関が認められたと報告した。</p>	<p>広告の役割</p>	<p>広告はこの産業において主要な競争のテクニック。それは、個々の企業が常に浮沈を繰り返していることを説明する。批判者たちがこの産業に貼りたがる共謀とかカルテル的行動という疑惑のレッテルには、根拠がない。</p> <p>統計的相関は、証明された因果関係と同じではない。</p>
<p>寡占企業がお互いの製品の相対的な健康リスクについて主張する競争を、止めさせねばならないと決め、その目標に達するために合意、共謀、そして協調行動を提案した。ビッグ・タバコは反トラスト法の方針を守ってこなかった。</p> <p>広告において健康に関する主張では争わないようにするという、企業間の長年にわたる明白な協定を示す、直接の証拠がたくさんある。</p>	<p>健康に関する広告</p>	<p>ビッグ・タバコは、いつも反トラスト法とその禁止事項をしっかりと認識していた。</p> <p>「恐怖」広告を止めるという決定は、きわめてもっともな理由からなされた。それは、健康上の過大な主張を止めさせることを目的とした、連邦取引委員会のシガレット広告ガイドラインへの対応策で、政府と協調しようと努力するものだった。</p>

<p>タバコ産業は、もし広告の中止に合意しなければ、連邦取引委員会がその「公平ドクトリン」のもと、反タバコ勢力が無料広告を出せるようにすることをおそれた。</p> <p>カルテルがより効果的に機能するように、政府が産業と協力しているということ。</p>	<p>広告中止の合意</p>	<p>タバコ産業は、これも政府の承認の下で、広告の単一の基準をつくるためにシガレット広告自主規制コードを確立してきた。このコードは、司法省反トラスト局の審査を通過している。</p>
<p>イノベーション</p>		
<p>「紳士協定」：「安全な」シガレットを製造する技術を開発した企業は、この産業の他の企業とその発見を共有すること。</p> <p>RJRのある役員；アメリカ合衆国のすべてのシガレットメーカーの間では、明確な合意がある。</p> <p>科学者よりは企業弁護士によって運営される TRC に研究の意思決定を集中することが意味したのは、それぞれの企業が競争するインセンティブが、根絶されたとはいかないまでも、著しく弱められたということ。</p>	<p>テンプル大学への研究資金の提供の拒否と TRC</p>	<p>一企業がこうした研究に資金を提供するなんて馬鹿げていた。そうしたことは、TRC の研究と重複するから。</p> <p>産業レベルの研究は、労力の重複を省き、効率を増進させることに合理性があった。</p>
<p>「紳士協定」：どの会社も企業内で無傷の実験動物を用いた生物医学的研究を行わないと取り決めていた。</p> <p>CTR はごまかしであり、喫煙と健康問題に対処することにタバコ産業が失敗したことを隠すイチジクの葉に過ぎなかった。</p>	<p>社内での生物医学的研究と CTR</p>	<p>タバコ企業にとって、そうした研究を行うことはまったくのムダ。そうした研究は CTR に集中したほうが効率的で経済的だった。タバコ産業は、研究の最前線でブレークスルーを生み出すのに CTR が最適だと考えた。</p>
<p>これらの革新的製品の消滅には、多くの要因が関わっていたかもしれないが、主要な理由は、メーカーが真実を語ろうとしなかったことにある。消費者は一方では安全と健康、他方では「よい味わい」というトレード・オフを正面から提示されることはなかった。もしも各社がマーケティングと広告においてこのトレード・オフに正直であったならば、「より安全な」シガレットははるかに大きな商業上の成功を収めていただろう。</p>	<p>「より安全な」シガレットが市場を席卷しなかった理由</p>	<p>消費者がこれらの新製品に向かわなかったというだけのこと。消費者は真のシガレットのように味わえなかったし、感じられなかった。</p>

<p>シガレット産業は、価格競争と非価格競争の両方を系統的に回避している、きつく編まれたカルテル。そのメンバーは、モザイク模様の反競争的取り決めと共謀的行動の中で、互いに結び付けられている。これは偶然ではなく、意識的に類似の行動をとろうという、共同の取り決めに沿ったものなの。</p>	<p>意見の要約</p>	<p>シガレットのような産業では、犬が犬を食うような価格競争を期待することはムダ。そうした敵対性は自殺行為だろう。しかし、シガレット会社は激しい非価格競争をおこなってきた。政府の規制の範囲内ではあるが、広告競争は激的で濃密なものである。全体としてみれば、個々の企業は公衆衛生と福祉に適った「安全な」シガレットを発見し、開発する、激しく継続的な競争にとりくんできた。</p>
--	---------------------	--

(作成：釜石 亮)